



明蓬館高校は 2009 年 4 月、閉校となった旧安宅小学校を活用して開校した広域通信制高校です。
 インターネットをフルに活用し、定期テストではなく成果物で学習を評価、年4日間安宅に宿泊しスクーリング（面接授業）を受ける学習システムです。

・・・外は寒いけど心は温か・・・

今年度最後の本校スクーリングが終了しました。

寒い中での4日間でしたが、心は温か・・・そんなスクーリングの日々でした。4回の中では一番人数も少なく、その分生徒達と一緒に過ごしたり、おしゃべりする時間がたくさん持てました。一番遠いところは、フィリピンからの生徒でした。一番近いところは川崎町のお隣の田川市の生徒です。

又今回は明蓬館高校のサポート校である東関東馬事高等学院に所属する未来の騎手、馬術選手の卵たちの参加もありました。地元でお嬢さんと「ホットカフェ」を運営する親子の参加もありました。フィリピンの話し、馬の話し、地域活動の話し・・・紙面でご紹介できないのが残念です。夢一杯の高校生達に接し私自身多くの刺激を受けました。本当に素晴らしい生徒たちでした。



開校式には川崎町の手嶋町長の旧友であられる、みやこ町の井上町長がご出席下さり励ましのお言葉をいただきました。英語他数力国語ご堪能な町長さんでした。



以心田心加工部の農家料理メイ
 ンは冬野菜たっぷり地鶏コラー
 ゲンあふれる安宅里鍋です。



観光農園フビユタでは、あま
 おうのイチゴ狩り体験を。

学校体験・学校説明会のご案内

2月1日(火)から28日(月)

月曜日から金曜日 10:00~16:00

・入学を検討している中学3年生、高校中退者、高校不登校生に限らずどなたでも参加できます。個別入学相談も受付中。

要予約0947(49)5111(小賀)

第二次募集：願書受付中

成田校長のお耳を拝借
 かれこれ昨年一月より毎日明蓬館のブログで短いエッセイを連載しています。幸い、まだ一日も休んだことがありません。ブログは一つの主題を十から四十くらいの小話にまとめています。「教育関連」では、アメリカの学校、高校時代、私と英語、コンピュータあれこれ、失敗した子育てと教育、数字と統計、「趣味」ではユーモア、愛読書、音楽の泉、ライセンスプレート、「旅」の話題では、USA、旅のE.J.ソート、Wisconsin、そして今は心の支えとなることば、を続けています。
 エッセイは長くもなく短くもなく、ほどよい六百字前後の分量でおさめます。まず主題を決め、それにそった副題で小話を考えます。副題のヒントは時事的話題、読んだ本、人との会話、ポッドキャストやインタビューからの話題、そしてこれまでの自分のさまざまな体験などにあります。電車の中でヒントが浮かぶこともあります。エッセイはいつも一週間分以上をためておきます。その場ですぐ書いて投稿するという芸当はできません。一つの小話といいますが、正確を期すために文献を調べたりするのに時間がかかります。英語の場合はなおさらです。時には半日もかかることさえあります。ブログは考えることとの連続です。もっと泉のように発想が湧き出てくるというのですが、その域に達していません。

校章のコンセプト

「@」をモチーフに図案化。そこから伸びゆく新芽と中心に配した笑顔は、卒業する頃には自分の立ち位置を見つけ強く明るい人間になってほしいという学校の願いを表現しています。

・・・この指とまれ・・・

今回のスクーリング中、中学3年生の専願入試面接が並行して行われました。セーラー服姿、詰襟姿が清々しい中学生達の真摯な瞳と、伝わってくる胸の鼓動にこちらでも大変緊張しました。「なぜ第一希望で明蓬館高校を受験したのか」・・・面接ではそれぞれの想い、高校での願いを自分の言葉で語ってくれました。本校スクール生は今年度募集定員が10名です。個別指導・個別対応を中心に各自に合った学習プログラム、方法を確立していきます。更に本校安宅地区の自然の力を借りた様々な体験活動を通し、食育と共に生きる力を培います。あと少し枠があります。一緒に高校生活を楽しみましょう！



↑書道の村上先生と成田校長先生と完成作品とパチリ！



↑芸術の授業は美術と書道と音楽に分かれます。美術では、切り絵で雪の結晶と干支のウサギがモチーフです・・・が、馬好きの彼らはリアルな線の馬の切り絵が出来上がりました。



自習時間に急きょ田川乗馬倶楽部に出かけました。



↑体験実習施設ラピュタでの夕食は冬野菜のバイキング。おなかいっぱい食べてもヘルシーです。



↑家庭科では煮込みハンバーグとかぼちゃスープを作って食べます。お父さんも参加。



↓朝食は管理人さんお二人の手料理。自給自足安全野菜の美味しさに大満足。合い鴨米、五穀米初めて食べて感謝です。

日野理事長のひびりごと

出願に際して思うこと

年明けて第一次出願を終える頃にばたたと願書が届きました。一年前、二年前から当校に入学したいと思っていた、という生徒。それをサポートし、意欲を支えてこられた保護者たちに接すると頭が下がります。うれしいですね。面接の際、「おとどしから、高校は、明蓬館高校しか考えてなかった」ということを生徒本人は恥ずかしかがって言えず、そっと母親が教えて下さいました。これもまたうれしいですね。本校のある九州の安宅に家族で住みたい、というご家族のご相談も受けています。世の中の流れが変わってきています。通信制高校の中でも変わった学校、(ひょっとすると世の中の大きな規範から逸脱した高校 かもしれない)めいほうかん高校への入学を望む方々は、ずっと先の未来を見晴らかしておられるのではないかと思えるようになりました。